

第18回 ちゅうでん教育振興助成（平成30年度）

報告書資料 一般 - 27

学校名・団体名	上越市立直江津小学校
コース	学校支援
活動・研究のテーマ	地域交流・地域貢献を通じた自己有用感の醸成

〈活動・研究の意義および活動報告〉

1 活動の実際

(1) 汐なり活動における自己有用感の育成

【1年生：みんななかよし】

学校生活が始まった1年生に、飼育を通して動物や友だち、身近な人々との関わりに関心をもたせ、自立への基礎を養いたいと考え、山古志より2頭のアルパカを迎えることにした。

子どもたちは、すぐにアルパカに夢中になって遊んだり世話をしたりした。小屋の掃除や糞の始末、えさの用意等、友だちと協力しないとできないことばかりである。日々の活動の中で声をかけ合い、力を合わせて最後までやりとげることが学んだ。大変な仕事も『水のバケツは重いけど、運んでいるとアルパカさんが、こっちをじっと見ている』から、アルパカのためになると思って進んで行った。

別れが近付いた11月下旬、アルパカからもらったプレゼントについて話した。『笑顔…周りにいるとみんな笑顔になるから』『友だち…一緒に遊んだからアルパカさんと友だちになって仲良くなった』『優しい気持ち…目を見ると私の考えていることが分かるみたい。アルパカさんは私のお母さんみたいです。』という記述からは自らの成長と重ね合わせて考えていることがうかがえた。

また、アルパカとの別れの後に、アルパカの視点で手紙を書かせた。『前略～きれいにお掃除してくれてありがとう。おいしい干し草をありがとう。クローバーの干し草もおいしかったよ。やさしくしてくれてありがとう。お散歩したのが楽しかったね。また、会いたいです。元気でね。山古志のあんこより』という記述が多くあり、アルパカの目を通して「頑張ってきた自分自身」に気付き、しっかりと認めていることがうかがえる。

【2年生：季節を楽しみ大きくなあれ】

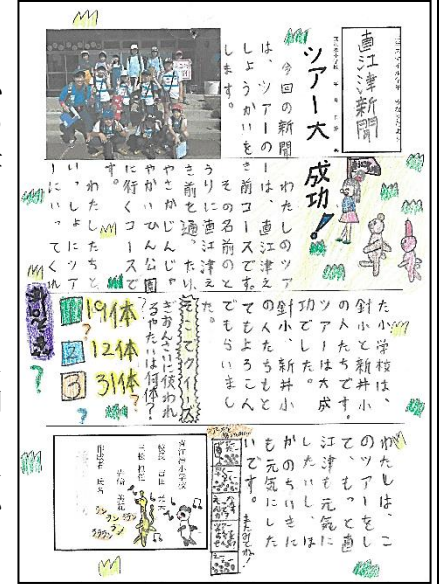
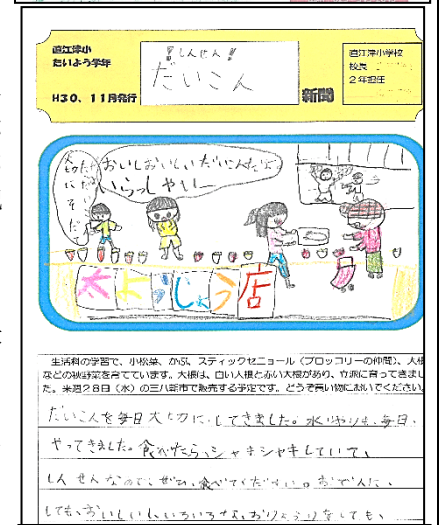
夏野菜から冬野菜へと年間を通して栽培活動を行い、自分の力で成し遂げる体験を積んできた。秋に育てた大根は、地域の朝市でレシピを付けて販売した。事前に近所の方に配付したチラシ効果もあり、たくさんの方が訪れて子どもたちに声をかけてくれた。大根を買った方から、「おいしかったよ。赤い大根も珍しいね」など感想をもらい、充実感満載の活動になった。

【3年生：直江津のすてき発見 広げよう えがお】

今年は、直江津に「うみがたり」水族博物館がオープンしたことが、活動の目玉になった。まちづくりの活動をしている地域の方とコラボして「うみがたりから何歩マップ」を作成し、近所に配付した。また、妙高市など遠く離れた学校の3年生を招待して、直江津すてきツアーを計画・実行し、自分たちの住む直江津の良さを、自分の視点から紹介した。ツアーの後に感想をもらい、直江津の良さを知ってもらえたことを喜ぶと同時に、人に教えることの楽しさや、直江津への誇りを感じる子が多くいた。

【4年生：直江津の川・海とこれからの私にできること】

学区を流れる関川の今昔について、地域の方から学んだり、関川に親しむ楽しい活動を考えたりして、地域に発信してきた。直江津の伝統行事、祇園祭には関川をご神体が下ってきて、地域を挙げてお迎えすることは今も昔も変わらないことを改めて学び、関川への思いを深めた。また、関川を楽しむ釣り体験を企画したり、川のジオラマを作成して公民館に飾ったりすることを通して、地域の方から温かく声をかけていただき、充実感をもって活動のまとめを行うことができた。



【5年生：「鉄道のみち直江津」から発信】

鉄道発祥の地としての直江津をアピールしようと、直江津駅舎や鉄道の歴史を調べたり、鉄道祭りに参加してイベントブースを担当したりと活動を広げてきた。えちごトキめき鉄道での貸し切り列車イベントを企画し、保護者や地域の方を招いたことは、子どもたちにとって自分で考えたことを実現する大イベントとなった。直江津をアピールするポスターを作成し、車両の中吊りとして掲示してもらったことで、自分たちの学びを多くの方に伝えたという充実感を味わうことができた。



【6年生：NPR 37（直江津PR隊37名）】

直江津地区の水族博物館「うみがたり」のオープンに向け、地域のお惣菜店とコラボして「うみがたり弁当」を企画・販売したり、オーストラリアのカウラ市長の上越市訪問の際に直江津の良さを英語で紹介したりと、今まで学習してきたふるさと直江津の特徴や良さを様々な機会に発表してきた。修学旅行では、「うみがたり」名物マゼランペンの生息地であるアルゼンチン大使館訪問したり、学校の宝で90年の歴史を誇るベヒシュタインピアノゆかりの人物ジェームスダンの墓地を訪ねたりすることを通して、ふるさとや母校を誇りに思う気持ちを育ててきた。

(2) 汐なり教育の日の実施

「夢・志、ふるさと、共生」をテーマに、全学年での道徳授業公開と元パラリンピック車いすバスケットボールの選手 神保康広さんを講師とした講演会や車いすバスケットボール体験を行った。この汐なり教育の日は、保護者、地域の方も子どもたちと一緒に、地域ぐるみで学ぶ場である。

高学年の道徳では「公平」や「障害は社会の側にある」ということについて考える授業を行った。6年児童は『やっぱり、病気の方や障害の人を見ると、「かわいそう」と思うときもあるので、無意識というのはこわいと思います。これからは他人事のような差別をなくし、見方を変えようと思います。』と記述し、難しいテーマと正対して自己の在り方を考える姿があった。

障害を乗り越えて夢をかなえた神保さんの話は、子どもたちの心に強く響いた。5年児童は『自信をもつことは大事だと感じました。ぼくは、知らない人となかなか話せません。そういう時に、自信をもちたいです。失敗をおそれないで何事も堂々とがんばりたいです。』と学習を振り返り、自分に自信をもつ勇気を得たことが分かる。



2 成果と課題

(1) 成果

全学年で子どもたちの家の向こう三軒両隣の方にご近所通信として活動のお知らせや学んだことを伝えてきた。回を重ね、学びが深まるにつれ、ご近所通信の内容も深まっていった。通信を見た地域の方がアルパカを迎える会に訪ねてこられたことを皮切りに、通信を受け取った方やご覧になった方から、子どもたちへ感想の言葉が届くことが子どもたちの喜びとなり、自信となっていった。以下は5年生の電車の中吊りポスターを見た方からもらった感想と、それを讀んだ子どもたちの思いである。

【地域の方から】

- ・電車の中がいつも混んでいてしたばかり向いているけど、かわいい絵が飾ってあるので上を向いて乗るようになりました。
- ・言葉と絵からおもてなしの気持ちが伝わりました。楽しい、うれしい気持ちになりました。
- ・なかなかできない取組をしていて「すごい!」と思いました。総合の勉強を頑張っていることが伝わってきました。

【感想をもらった5年児童の思い】

- ・感想をもらってとても嬉しくなりました。私たちの描いた絵でこんな素敵な気持ちになってくれるなんて思ってもいませんでした。
- ・自分たちが一生懸命描いた絵が、「ホッ」とするといわれて、もっと頑張ろうと思いました。こんなに感謝されているんだなと思いました。
- ・今日、上越タイムス（新聞）の記事を読んで、中吊り広告が完成したと思いました。前に絵はできあがったけど、お客さんに気持ちが届いて初めて、完成したといえるんじゃないかなと思いました。～中略～なんだか私何かすれば、どんな小さなことでも、どんなにくだらしないものでも必ず誰かが見てくれると思えました。むだじゃないって思うと、とてもうれしかったです。

自分たちが発信した思いが、地域の方に広く伝わったという実感が、子どもたちの自己有用感を大きく膨らませ、成長につながっている。

(2) 課題

自らの学びをご近所通信で発信し、それを見た方から感想や思いが子どもたちに返ってくる。そしてまた次への意欲につながる。今年度は、このサイクルがすこし見え始めたところである。小さなことでも継続して発信し続けることで、近所の方から「この前の通信讀んだよ。すごいねえ。」と声をかけられるなど、学校や家庭だけではない地域の中でも自分は認められているんだという実感へとつなげていきたい。また、通信を持ってきた子どもと話したり、子どもたちの言葉を通して学校の学習の様子を知ったりすることが、地域の方にとっても元気のもとになることを願っている。ご近所通信を発行して終わることなく、子どもたちの学びや言葉、思いが連鎖して、地域の活力につながるような活動を創造していきたい。